



被災当時の様子。「鳥取県西部地震 安来市の記録」、  
「鳥取県西部地震 伯太町の復興 ～1年6か月の記録～」から

# その時のために

～鳥取県西部地震から20年 防災の意識を再び～

平成12年10月6日13時30分、その時は訪れました。鳥取県西部を震源とするマグニチュード7.3の地震。鳥取県西部地震です。

市内での最大震度は、旧伯太町の震度6弱（文部科学省設置の震度計の計測値を解析した結果）。これは、人が立っていることが難しくなるほどの揺れとされています。

白昼に襲った非常に大きな揺れはまちに多くの爪痕を残しました。家屋や公共施設、道路、河川などでは、損壊や亀裂、水道管の漏水などの被害が。生活面では、避難所や仮設住宅での暮らしを余儀なくされた人や車で寝泊まりする人も多く、余震が続く中、不安な日々を送りました。

いつ起きるか分からない地震などの災害。「いつか」の出来事を「いつも」意識して生活することが必要です。家庭・自治会での備蓄や家の耐震補強、家具が倒れないようにするなどの対策はできていますか。いつか準備しようではなく、すぐに準備することが大切です。

市内を襲った大きな災害から20年。この機会に災害への備えを改めて考えてみてはいかがでしょうか。



3

仮設住宅が建てられた伯太町須山地区。当時、自治会長を務めていた山尾貞雄さんに話を伺いました。

### 気が動転するほどの大きな音と揺れ

「ゴーツ」とすごい音がしたのをよく覚えています。稲刈りの真っ最中で、私は機械を動かしていました。その音に気づいたほどです。家の方向を見ると横揺れしているのがよく分かりました。揺れがおさまってから家の様子を見てみると、家屋の土台が下がっており、食器棚が倒れ、壁に複数の亀裂が入っていました。

私は自治会長をしていたので、「集落の人たちの様子を見に行かなくては」と思い、オートバイを走らせました。

集落を見て回ると、多くの人が軒先に出ているのが確認できました。その時、あまりの揺れ



山尾貞雄さん(88歳)



▲破損した2階の雨戸(山尾さん宅)。

で腰が抜けてしまったのか、地面に伏せて助けを呼んでいる90歳近くのおばあさんを見つけた。近くには人がいました。誰もおばあさんに気づいていないようでした。これだけのこと起きるとみんな気が動転して、周りが見えなくなってしまうと実感しました。

### もしもの時に大切なのは助け合える関係

私の家族は、地震が起きた当日から翌年の5月上旬まで避難所と仮設住宅で生活しました。その間、被災した家の片付けや炊き出しなどいろいろな場面で、町外のボランティアの方に助けていただきました。地域の



▲須山地区に建てられた仮設住宅。

人でとても良くしてください方もいました。このとき、災害の時にこそ地域の人の助け合いが大切だと感じました。いつも近くにいる人同士で何かあったら協力し合える関係を持つておく心安いです。

災害は、いつ起きるか分かりません。高齢化が進み、一人暮らしをする年配の方も増えている中、普段の近所付き合いが大切だと思います。

どこにどのような人が住んでいるか、お互いが顔見知りになっておく必要があります。そして、いざという時には、助け合えるようにしておかなければいけないということを強く訴えたいです。

## Let's 家庭内備蓄

### 家庭で備蓄することが望ましいもの

□食料など(1日分以上)

主食：レトルト食品、米、インスタント麺など

主菜・副菜：缶詰、漬物など

汁物：味噌汁、スープ類など

調味料：砂糖、塩、みそ、しょうゆなど

嗜好品：あめ、チョコレート、ふりかけなど

飲料水：ミネラルウォーター、お茶など

□水(1人あたり1日3リットル以上)

□資機材など

携帯ラジオ、懐中電灯、軍手、タオル、常備薬、カイロなど

バッグにまとめて、すぐに持ち出せるように!



### Yahoo! 防災速報アプリ

こちらのQRコードからダウンロードできます。



Android用



iOS用

鳥取県西部地震のあと、市内では、大規模な地震はありません。しかし、台風や大雨によって道路が陥没したり、家の裏山が崩れたりするなどの災害は起きています。市内でも自然災害が起きていたというのを認識していただき、再度「防災」に目を向けてもらいたいと思います。

市では、災害が起きる前や発生した際の情報発信を充実させるため昨年度、ヤフー株式会社と「災害に係る情報発信等に関する協定」を締結。これにより「Yahoo!防災速報」のアプリを使うと、市内で災害が起きた時に注意喚起や避難に関する情報を受け取ることができるようになります。

非常時には、情報を得ることはとても重要になりますので、

## 一人一人の意識が まちの防災力を高めます

ぜひこのようなツールも活用してください。

行政機関では、定期的な防災訓練などを行い連携を深め、災害に備えています。が、実際に災害が起きた際は、行政による「公助」にはどうしても限界があります。あらかじめ家庭や自治会などで備蓄をしたり、避難所の運営について話し合ったりして「自助力」「共助力」を養っておいていただきたいです。また、高齢者の一人暮らし世帯がある地域は、日頃からの声かけや健康状態などを把握しておくことも大切です。

いつ起きるか分からないことですので、「いつか準備」ではなく、「すぐに準備」をお願いします。一人一人の意識でまちの防災力を高めていきましょう。



防災課  
遠藤浩人課長

## ご活用ください 災害に備えるための支援

### 自主防災組織育成事業補助金

●防災資機材を購入、または防災訓練等を実施する費用の一部を助成

#### 補助率

対象経費の3分の2以内（この補助金を3回利用した団体は2分の1以内）。上限は自主防災組織の構成世帯数に応じて4～16万円まで

#### 対象

自主防災組織（認定必要）



◀自主防災組織が行う防災訓練の様子。



▲ヘルメットやヘッドライトなどの資機材。

●防災士資格取得に係る経費を助成（旅費を除く）

#### 対象経費（一人1回のみ）

防災士研修受講料・資格取得試験受講料・資格認定登録料

#### 対象

自主防災組織など

問い合わせ 防災課 ☎ 23-3074